

---

# 真剣で私に恋しなさい!世界...

嘘月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真剣で私に恋しなさい！世界：

### 【Nコード】

N7059Y

### 【作者名】

嘘月

### 【あらすじ】

平和？な風間ファミリーに新たな仲間！！？が入る……のか？

## まだまだ（前書き）

川神市に毎年恒例の「例の祭り」が始まる時期がやって来ました

まだまだ

ここは、日本国、神奈川県、神川市のある神社……の入り口

「やっぱり帰らない？秘密基地で遊びましょよ」

川神一子（通称：ワンコ）が直江大和の腰にしがみつながら駄々をこねていた。

「しつこいぞワンコ、何がそんなに嫌なんだ？」

ワンコが、川神百代（大和限定：姉さん・ワンコ限定：お姉様）から大和の腰から引き剥がされると子犬が、首根っこを持たれた様な格好になりながら宙ぶらりん状態で、涙を浮かべながら呟いた。

「うう……分かってるくせにお姉様のイジワル」

「じゃあキャップ達も待つてるだろうしそろそろ行こうか姉さん」

大和がわざと聞こえてないふりをして百代に話しかけると、ワンコは必死に逃げようとするが首根っこを捕まえている百代の手が離れずズルズル引きずられながらワンコの遠吠えのような叫びが虚しく聞こえてくるのだった

ちょうど大和達が、祭りに向かった直後怪しい人影が忍び寄ってきていたのだった。

**まだまだ（後書き）**

感想が頂ければ更新します

## そろそろ（前書き）

短いですがよろしく（＾＾）今回も感想が来しだい更新します

そろそろ

ワンコがちょうど駄々をこねていたその頃……

「な……な……ん何なんだこれはー！！？」

ちよつと面白い事になっていた。

「あわわわ……キャップさんあそこ……いやここら辺の出店いやこの祭りなんか変じゃないですか？」

クリス（クリスティアーネ・フリードリヒ：ワンコ限定・クリ）と由紀江（黛由紀江・通称：まゆっち）が、顔を赤面にさせながらキャップ達を見ていた

「……この祭りはね、ちよつと変わってるけど楽しいよ」

キャップの代わりに京（椎名京）が顔色全く変えず淡々と話した

「し……しかしだなやはりここら辺の出店に並んで……！！？」

クリスが喋っている最中に京が出店に並んでいたナニを口に突っ込んで黙らした

「ううん！！ううん！！？」

最初は、暴れていたが味がよかつたらしく最後には、普通に食べていた

## そろそろ（後書き）

ご意見・ご感想とじしお待ちいたします



ちよつと(前書き)

更新遅れてすいません  
感想をいただきしだいまた更新します

ちょっと

それぞれ2つのグループが面白くなってるなか暑苦しい奴のいるグループは、というと……

「おい、モロ（師岡 卓也・通称：モロ）あと何を運ぶんだ？」

暑苦しい日に暑苦しい奴が神輿に使う材木を運んでいた。

「材木は、それで最後だよ。あとは、見せ物用のアレと小道具を運べば終わりだよ」

「よっしゃあならあと人踏張りだな」

「でもガクト（島津岳人・通称：ガクト）なんで、皆で、運ぶ筈だったのなんで、一人で運ぶなんて言ったの？」

ガクトは、顔だけ横に向けてきた

「そりゃあこおして一人で黙々と運んでいれば……格好いいじゃないか」

「はは…は」

モロは、苦笑いをするのだった

「うわ」

その直後、モロの背中に何か当たっていった

「その人捕まえてくれー」

モロに当たっていった人が通りすぎるとほぼ同時に後ろから中年男性が汗をかきながら必死に走ってきた

「ス、ス、ス、スリだ財布を盗られた捕まえてくれ」

「モロまだ神輿に使う材木は、残ってたよな。」

「予備は、一応あるけど…ってまさかガクト!？」

モロがビックリした原因は、材木を槍投げの様に片手で掴んで今にも投げようとしていた。

「ぶった押せ俺様ミサイル」

ガクトは、全力で材木を窃盗犯に投げつけた

いくら窃盗犯でもあの神輿に使う材木が当たればひとたまりもないだろうとモロが思った時には、窃盗犯の目の前まで材木が迫っていた。

窃盗犯は、か〇はめ破を撃つように手首を合わせ手を広げて材木が、ちょうど手のひらに入った瞬間、手をねじりそのまま下から打ち上げるようにして掌底を決めた。

材木は、半分粉々になりカランカランと地面に落ちた所でガクト達は、ハッと現実に取り戻された。

## ちょっと(後書き)

次回からちょこちょこ戦闘シーンが入ります

ご意見・ご感想どしどしお待ちいたします。

やる？（前書き）

更新遅れてすいません

Thank you 2000 アクセス

やる？

その跡、窃盗犯は、すぐに駆け出しガクト達も追い掛けた

「はあ、はあガクト、僕もう無理だよ先に行つて皆に連絡しとくから」

「わかつた連絡任したぞ」

モロは、やはり体力が余りなくあつという間にガクトから距離が離れていった

（しかしあいつかなり体力あるなさつきも余裕で材木破壊したしやつぱり経験者か？）

ふとガクトが考えてすぐ窃盗犯は、走る速度を上げた

「チツまちやがれ」

ガクトも走る速度を上げたが何故かどんどん距離が離れていった。

やる？（後書き）

ご意見・ご感想とじしお待ちいたします

でっでも（前書き）

遅れてすみません



でも

ガクトが窃盗犯を追いかけている頃、他のメンバーは、集合しておりモロの連絡を受けて窃盗犯を探していた。

「ワンコ匂いとかで探せないのか？」

「流石に無理よゝあつ、でもガクトの匂いならわかるかも」

メンバー別れており「ワンコ・クリス」「大和・百代・京」「キヤップ・まゆっち」で窃盗犯を探していた

「そうなのかならいくぞワンコ!!」

「わかってるわよ」

大和夫妻……百代ペア

「大和ゝ大和ゝ」

「京そんなにくつつくな歩きずらいだろ」

「そうか大和、歩きずらいか」

「うわ、姉さんもくつつくな」

百代も悪のりで大和にくつついてきた

「窃盗犯捕まえて皆で祭りに行くんだから速く見つけないと」

大和が強引に逃げるように二人を外した

「わかつているさ弟よ……川神流「千里眼」」

百代は、塀の上に登って千里眼で周囲を見渡すとニヤツと笑って大和達を見て

「見つけたこいつは、面白くなって来たぞ」

百代は、そのまま塀の上を伝っていき大和と京は、後ろからついていった。

キャップ・まゆっちペア

「どうするんだ〜キャップ」

まゆっち……松風がキャップに少し不安そうに聞くとキャップは、道端に落ちている木の棒を拾ってくると棒をまゆっちと松風に向けてニヤツと笑うと

「俺は、運いいんだぜ!!」

そう言うと同時に拾った棒を宙に投げるとクルクルと棒が回りカランカランとある道の方をさした

「こっちだぜ行くぞまゆっちに松風」

「松風……こんなので大丈夫何でしょうか？」

「どうだろうな」

## でも（後書き）

ご意見・ご感想とじしお待ちいたします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7059y/>

---

真剣で私に恋しなさい!世界...

2011年12月21日12時54分発行